令和４年度
横浜市立高等学校及び併設型中学校

第 三 者 評 価 結 果

横浜市教育委員会

＜ 目　　次 ＞

Ⅰ「横浜市立高等学校及び併設型中学校」の学校評価 …… 1

Ⅱ　令和４年度第三者評価について …… 2

１　実施概要

２　評価者及び訪問調査校

Ⅲ　訪問調査校の評価 …… 3

１　金沢高等学校 …… 4

２　横浜総合高等学校 …… 10

Ⅰ「横浜市立高等学校及び併設型中学校」の学校評価

市立高校及び併設型中学校は、学校評価の基本である全教職員による自己評価と生徒の保護者や地域、その他学校関係者等による学校関係者評価を行うとともに、年間２～４校に対し教育活動その他の学校運営について外部の専門家等による第三者評価を行います。

市立高校及び併設型中学校の学校評価は、次の手順で実施します。

１　自己評価

各学校は、校内評価委員会を組織します。校内評価委員会は、教職員による学校評価、生徒による学校評価、授業評価、保護者及び地域による学校評価を組織的に行い、評価結果の分析により課題を明らかにするとともに、学校関係者評価の結果を踏まえ、重点課題の改善策を中心に「自己評価書」を作成します。

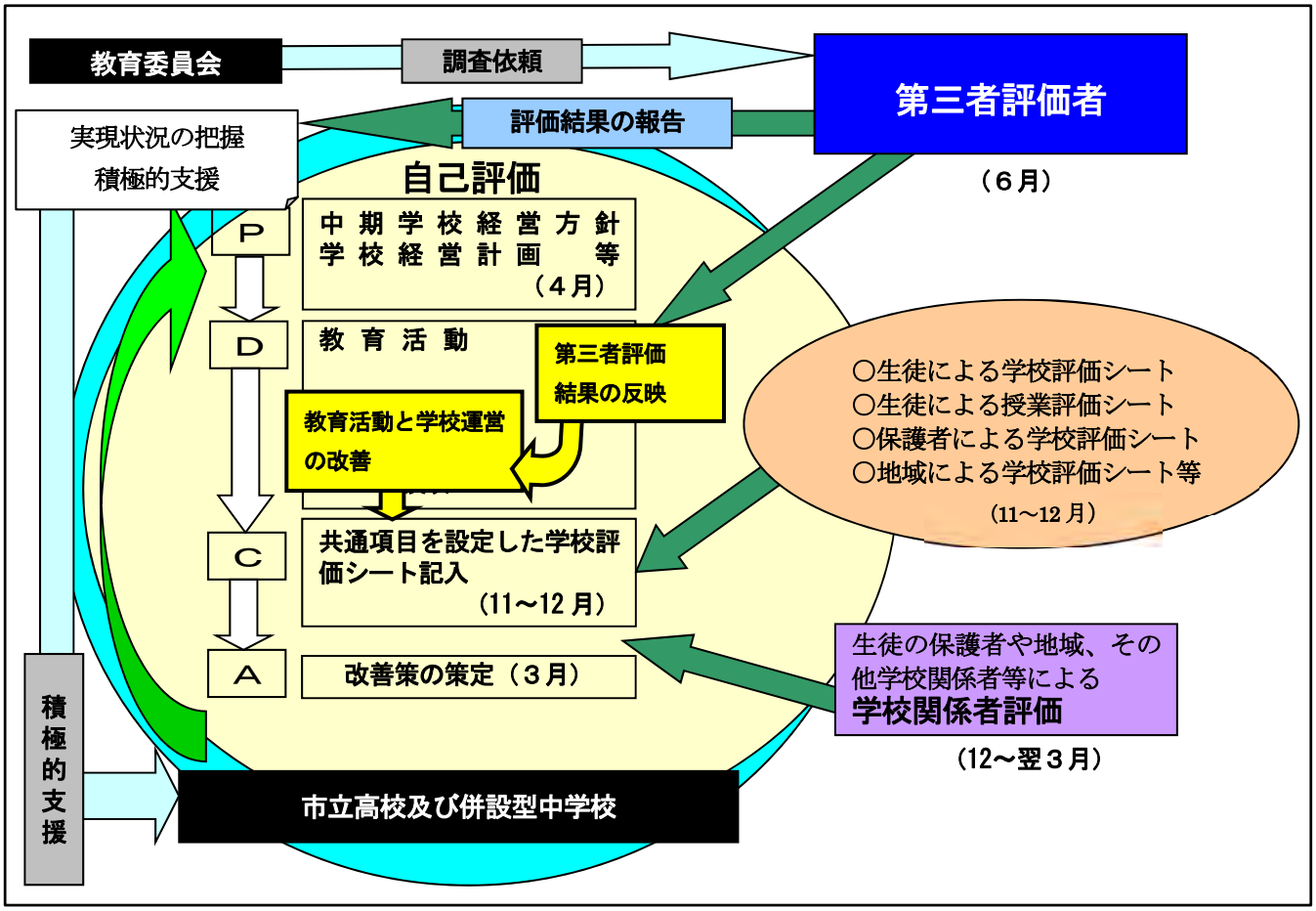
２　学校関係者評価

各学校は、学校関係者評価を実施するため、生徒の保護者や地域、その他学校関係者等によって構成される学校関係者評価委員会を組織します。学校関係者評価委員会は、各学校でまとめた評価の結果等を活用するとともに、授業や学校行事等の教育活動を観察し、「学校関係者評価書」を作成します。

３　第三者評価

教育委員会は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による評価者（以下「第三者評価者」という。）に調査を依頼します。第三者評価者は、教育活動その他の学校運営について、年間２～４校の訪問調査を行います。調査結果は教育委員会が取りまとめます。

＜市立高校及び併設型中学校 学校評価の体系図＞



Ⅱ　令和４年度第三者評価について

１　実施概要

（１）　実施方法

ア　１校につき３名の評価者が訪問します。

イ　評価者は、令和３年度の「自己評価書」「学校関係者評価書」及び令和４年度「学校経営計画」について主に重点取組項目を中心に校長から説明を受けた後、授業参観、施設・設備の観察、教職員（校長・副校長・教務主任等）及び在校生からのヒアリング等を通して評価します。

ウ　教育委員会は、評価者からの評価と講評をとりまとめ、第三者評価結果を作成し、公表します。

（２）　訪問調査校及び日程

ア　訪問調査校

金沢高等学校、横浜総合高等学校

イ　実施日程

６月 23 日：金沢高等学校

６月 29 日：横浜総合高等学校

（３）　活用

ア　学校は、評価結果を教育活動及び学校運営の改善に反映させます。

イ　教育委員会は、各学校の教育環境の改善に向けた必要な措置などの施策に生かします。

２　評価者及び訪問調査校（五十音順）

評価者氏名	所　　属　　等	訪問調査校
青柳　寛子	横浜市ＰＴＡ連絡協議会　副会長	金沢高等学校
岩谷　伸一	横浜商工会議所　推薦 学校法人　岩谷学園学園長	金沢高等学校
植田　みどり	国立教育政策研究所　総括研究官	横浜総合高等学校
木村　典明	横浜市立釜利谷中学校　校長	金沢高等学校
倉根　美帆	横浜市ＰＴＡ連絡協議会　副会長	横浜総合高等学校
浜田　博文	国立大学法人筑波大学 人間系（教育学域）　教授	横浜総合高等学校

※所属等は調査時のものです。

Ⅲ　訪問調査校の評価

金沢高等学校の概要

創　　立：昭和 26 年
住　　所：横浜市金沢区瀬戸 22－１
課 程 等：学年制による全日制の課程
クラス数：24 クラス
生 徒 数：947 名（令和４年４月１日現在）
学 校 長：佐々木　健一

横浜総合高等学校の概要

創　　立：平成 13 年
住　　所：横浜市南区大岡２－29－１
課 程 等：単位制による定時制の課程
クラス数：36 クラス
　　総合学科Ⅰ部　14 クラス
　　総合学科Ⅱ部　11 クラス
　　総合学科Ⅲ部　11 クラス
生 徒 数：1,006 名（令和４年４月１日現在）
　　総合学科Ⅰ部　442 名
　　総合学科Ⅱ部　320 名
　　総合学科Ⅲ部　244 名
学 校 長：横田　孝行

横浜市立 金沢 高等学校

（１）魅力ある学校づくりの推進状況

観点	評価者 1	評価者 2	評価者 3	評価規準
市立高校の魅力づくり	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない
進路希望実現への支援	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない
市立高校における グローバル人材の育成	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない

【市立高校の魅力づくり】

- 横浜市立大学に隣接しているという利点も生かし、高大連携講座を実施するなど、市立高校の魅力づくりも十分に達成されている。

- 隣接する横浜市立大学と連携し、1 年生が自己形成プログラムにより 1 年間学び、発表し、講評を受けている。また、英語の育成プログラムでは 5 日間英語漬けでネイティブの先生による英語の指導を受け、SDGs をテーマに英語討論会を行っている。その他、横浜市立大学への授業参加や横浜市立大学生の卒論発表見学などを積極的に実施し、このような活発な活動を通して学校の魅力づくり、進路希望実現への支援、グローバル人材の育成を進めている。自校だけで教育を完結させるのではなく、社会へ窓を開き、社会にあるものをうまく教育に活用していく学校の姿勢に共感が持てる。今後も社会にあるものを上手に活用し、できたら生徒自らがこれらを使って自分の興味・関心を高めていくようになれば、ワクワクドキドキするような教育が実現し、学校の今育てたい生徒像「高い志を持ち、学び続け、さまざまな分野で活躍する人」を叶えることになるだろう。

ＳＤＧｓに関わる内容を学ぶ
横浜市立大学の教授による「総合的な探究の時間」

【進路希望実現への支援】

- 進路希望実現に向け、スタディーサポート[1]の計画的な実施と結果を活用した生徒一人ひとりにあった指導をしている。基礎学力のみならず、進学に向けた学力向上を図るための夏期講座等、学校が一丸となり努力している。

- 高大連携プログラムにより、横浜市立大学と積極的に連携を図っている。特に、横浜市立大学の支援のもとで研究したことを研究発表という形で実施していることは、「進路探究を通して、高い志を持って自らの進路を切り拓く力を育成する」という学校教育目標の達成に適う取組であり、評価できる。また、基礎学力テスト・適性検査・卒業生との懇談会・校外模試などを系統立てて実施していることも、生徒が望む進路を実現するために大変役立っていると思われる。

【市立高校におけるグローバル人材の育成】

- サンディエゴの姉妹校との交流等は、近年はコロナ過において従来通り実施されなかったことも多かったが、オンラインにて最大限の工夫をしての実施をしていることは評価できる点である。姉妹校との交流等、今後も引き続き期待をする。

- サンディエゴの２つの高校と交流することで、世界を広く見つめる人材の育成において貢献できている。コロナ禍で直接訪問こそできないが、リモートによって交流を絶やすことなく継続していることから、国際交流活動に注力していることがうかがわれる。

（２）教育活動の状況

観点	評価者１	評価者２	評価者３	評価規準
《教育課程》 学校の実態、課程や学科の特色を十分考慮した教育課程の編成がなされているか	A	A	A	中期学校経営方針に示された取組が計画を大幅に上回って進んでいる
	B	B	B	中期学校経営方針に示された取組が概ね進捗している
	C	C	C	中期学校経営方針に示された取組があまり行われていない
《進路指導》 進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか	A	A	A	どの生徒も進路の高い目標を設定し、自ら目標達成に向けた進路計画の立案や実践を行っている
	B	B	B	生徒は学校からの進路情報を十分に理解し、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる
	C	C	C	進路指導に対して不安を訴える生徒が大勢いるにもかかわらず、進路指導の改善があまり行われていない

【教育課程】

- 「高める」「つなげる」「広げる」という三つの要素にカテゴライズした必修・選択プログラムで構成される KANAZAWA プログラムを設定することにより、金沢高校が育成を目指す資質・能力「問題を解決する力」「協調・協働する力」「信じる道に挑戦する力」を教職員がより意識して教育活動を展開できるように工夫されている。

- 教員や生徒のアンケート結果に比べ保護者によるアンケート結果については低下傾向が見られるが、学校での生徒の取組等を伝えるため、音楽祭をリアルタイムで発信するなどして改善に努めている。

[1] スタディーサポート…履修内容の習得確認と進路生活学習面の振り返りを行う（株）ベネッセコーポレーションの業者テスト。

- 生徒による授業評価で１年生と２年生の学習意欲項目の肯定的評価割合が 66%、67%と少し低い。72 期生徒による授業評価集計でもいくつかの科目で学習意欲、理解度で肯定的評価割合が低く出ている。社会と情報科目では過半数の項目で肯定的評価割合が低い。金沢高校のように年２回も評価をしている高校は珍しい。それだけ真剣に評価機会を設け、より良い教育を目指すのであれば、このような指標も疎かにせず、活用して改善に取り組んでほしい。

- 部活動では、月・水・金は７限、火・木は６限と週 33 限の教育時間が組まれている中で、生徒の 88%が加入し、全国大会出場まで実現している。時間が制約されている中で教員と生徒が上手に時間を使って活動の実効性をあげていること、充実した学校生活を送っていることが分かる。

オールイングリッシュの５日間英語力向上プログラム
「横浜市立大学プラクティカル・イングリッシュ(PE)講座」

義務教育学校西金沢学園での学習支援
「教育ボランティア」

様々な教育活動が展開される「KANAZAWA プログラム」

【進路指導】

- 適正検査 R-CAP[2]の実施や、セミナー研修・外部模試を必修とし、生徒一人ひとりに対して、それぞれ綿密な計画に基づいた進路指導が行われている。アンケート結果より、生徒・保護者ともに満足している方が大多数なので、十分に達成されていると思われる。

- 選択制で、夏期講習・サンディエゴ国際交流・PE(夏期短期英語プログラム)・横浜市立大学授業聴講など様々な応用的な取組を行っている。学力だけではなく広い世界に目を向け、将来のなりたい自分像探しに非常に重要な取組であり、効果的である。今後も継続されることを引き続き期待する。

- ほとんどの生徒が大学進学希望者である。最初は特進クラスを設け２クラスでスタート、特進プログラム展開により全クラスで実施し、実績を築き現在に至っている。今年度から KANAZAWA プログラムと命名し、充実を図っており、生徒の希望進路の実現に大きく貢献していると言える。

- 常時開放している自習室や進路担当教員が常駐する進路資料室など、生徒が進路の実現に向けて主体的に学ぶことができる環境を整えている。進学指導重点校であり、校長のリーダーシップのもとに、教職員が共通の認識を持って、それぞれの役割・立場において協力して指導に当たっている様子がうかがわれた。家庭や隣接する横浜市立大学をはじめとする関係者・関係機関との連携についても十分行われている。

[2] R-CAP…（株）リクルートソリューションズが開発したキャリア教育実践ツール。

（３）学校経営の状況

観点	評価者1	評価者2	評価者3	評価規準
《組織運営及び教職員研修》 教職員が意欲的に業務に取り組める組織であるか。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	A	A	A	情報共有が徹底され、様々な問題に対して迅速に対処している協力関係がある。また、学校は常に教職員の研鑽に努めている
	B	B	B	一人ひとりの教職員は意欲的に業務に取り組んでいる。また、様々な研修によって教職員の力量が向上している
	C	C	C	教職員組織の見直しが滞っている。また、教職員の力量向上のための研修があまり行われていない
《危機管理》 防災計画・防犯計画は学校の実態を踏まえた計画であり、訓練が適切に行われているか	A	A	A	生徒は防災及び防犯に対する意識が高い。また、地理条件に合った訓練を行い、非常時には適切な行動が取れる
	B	B	B	生徒に避難経路を周知し、十分な訓練を行っている。また、防犯についても適切な訓練等の指導を行っている
	C	C	C	生徒に避難経路が周知されていない。また、防犯訓練等の指導があまり実施されていない

【組織運営及び教職員研修】

- 教員は授業において、生徒を引きつけるわかりやすい授業を展開しており、相当な努力をしているだろうということが十分に伝わってくる。
  授業中の生徒も受け身だけではなく、自由に発言できる雰囲気にあり、生き生きとしていた。取り残されない生徒がいないか、丁寧に確認しながら授業を進めており、教職員の力量向上はなされている。今後も全教員が同じようなレベルの授業がなされるよう期待をしたい。

- 教職員は様々な制約がある中で、グループで相談しながら問題解決に取り組んでいる。教育熱心な教員ほど、時間と情熱を限りなく教育に注ぐ。そのため、そのような教員ほど早く消耗してしまう傾向にある。それを改善していくためには、教員の職務内容を一から見直し明確にし、教員が通常の勤務時間でできるように設定し、教員以外でもできる仕事は教員以外のスタッフや外部に委託する事を進める必要がある。ICT などを導入し効率化を図ることも不可欠である。教職員で相談し改善に努めてほしい。

- アンケートで、学校教育の根幹となる「学校教育目標」やその目標を達成するための学校経営計画の戦略を示した「学校経営目標」を「踏まえた組織になっているか」の問いに、肯定的に答えている教職員が 80%を超えていて高い数値を示している。しかも、前年度と比較して飛躍的に数値が向上している。このことは、学年や校務分掌の配置が適切で、教育活動が効果的に行うことができる組織が編成されており、教職員のモチベーションを維持するにふさわしい職場環境となっていることを示していると思われる。これまでの経験や知見を役立て、組織編成に取り組んだ管理職をはじめとする教職員を高く評価したい。

【危機管理】

- 危機管理については、アンケート結果から、生徒への指導が十分ではないと思われる。避難経路等はなるべくなら全生徒が把握できているように更なる努力が必要である。また、電車通学ということも踏まえた通学途中で災害にあった場合の指導も必要と思われる。今後の改善に期待する。

- 災害時の生徒の避難経路について生徒の認識度が低い。他校でも見られる傾向である。しかし、数年にわたりその傾向が見られるため、次は生徒自身が興味感心を持てるように、生徒中心のプロジェクトを結成し任せることも考えられる。

- コロナ禍で制限がある中でも、避難経路の確認や日常の活動の中などでしっかり指導を行っている。一方で、校内の避難経路の理解について肯定的な生徒が半数弱にとどまっているのが気になるところである。今後、コロナ禍でのできることできないことの見極めが明確になっていき、集合型・体験型の教育活動が再開されれば、生徒の理解が深まっていくことは十分期待できる。

（４）いじめに関する項目（いじめへの対応）

- 生徒支援部を中心に学校全体で一人ひとりの生徒を支援していく体制を作って継続している。「いじめは何時起きてもおかしくない」というのが多くの教育現場での感想である。そのような緊張感を常に持ち、起きたときは素早く対応できるようにしてほしい。

- アンケートで、「いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる」に肯定的な教職員は 90%に達している。学年・生活指導部・いじめ防止委員会の教職員が情報共有で終わらせることなく、いじめの認知と対応方針決めを迅速に行い、役割分担しながら組織で対応している様子がうかがえて、高く評価できる。また、「あなたは本校の生徒であることに誇りを感じていますか」の問いに 90%の生徒が肯定的にとらえていることから、生徒が充実した学校生活を送れていることが推察される。生徒に自信と誇りを醸成させる一つ一つの質の高い教育活動が担保されていることが、いじめが起きにくい環境を作っていると考えられる。

（５）総合所見

- 進学指導重点校として様々な取組をしており、教職員の努力を感じる。生徒に対しても一方通行の教育ではなく、生徒が協力し合い考える授業や発言しやすい雰囲気があった。生徒も生き生きとしており、とても良い環境が作り出されていて高く評価できる。

- 横浜市立大学に隣接し、大学と様々な交流をしているという取組は他の学校にはそうそうにはない、素晴らしい特色と言える。一方で、これだけ素晴らしい学校を作り上げていくには教職員の労力は必要であり、労働時間等は心配すべき点である。

- いくつかの授業を見学したが、生徒が楽しそうに授業を受けている姿がとても印象に残った。生徒が自主的に学習を進め、自分でモノを考え、行動する力を持っているように感じた。

- 教職員が相談をしながらチームとして力を合わせ、問題解決をしている。校長を始めとする熱心な説明と質疑応答から、とても良い学校であることが理解できた。

- １年生の授業見学では ICT を活用した授業であつたが、他学年は従来の授業形態であった。可能であれば、ICT に予算をもっと使って ICT を活用した教育を進め、多くの先進的な教育事例を作り、発表してほしい。

- 質の高い教育活動が展開されていて、生徒の学習に臨む態度も極めて良好である。授業の指導者と生徒とのやり取りを見ていても、日頃から人間関係の構築と魅力的な引きつける授業づくりに教職員が力を注いでいることがよく分かった。生徒は、学力が高く品行方正で大変好感が持てるし、将来の横浜や我が国を支える優秀な人材の集まりであると言っても過言ではない。

- 駅から近く、広大なグラウンドを所有し、情報処理室や自習室も完備している。しかしながら残念なことに建物の老朽化には目をあてられない箇所が多々あり、取組や中身は素晴らしいのだが、やはり見た目という点でとても損をしている。壁がはがれている、天井がはがれているというのが目に入ると安全基準上クリアされているのは承知でも不安に思う。清掃は行きとどいているので、これは学校側の問題ではないが改善すべきである。

- 1,000 人近い優秀な人材を高品質な教育で育てることを目指すのであれば、老朽化した校舎を立て直し、施設・設備の充実した環境の中で学びと向き合わせることが肝要である。教育界への昨今の ICT 機器の普及なども踏まえると、生徒が新時代をリードするような人材に育つためには、様々なガジェットやツールに触れさせておくことも必要である。大きな予算を必要とするが、未来への先行投資として施設・設備の充実を図ることが、急務であると同時に、教職員による指導の効果も十分に高めることが可能になることを申し添えておきたい。

横浜市立 横浜総合 高等学校

（１）魅力ある学校づくりの推進状況

観点	評価者 1	評価者 2	評価者 3	評価規準
市立高校の魅力づくり	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない
進路希望実現への支援	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない
市立高校における グローバル人材の育成	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない

【市立高校の魅力づくり】

- 三部制の単位制総合学科の定時制高等学校としての特色を理解し、生徒の多様なニーズや課題という現状を把握した上で、魅力ある高校教育の推進に向けた的確な学校経営が行われている。市立高校としての魅力づくりという点では、特筆すべき取組として「ようこそカフェ[3]」がある。平成 28 年の開設以来、生徒の居場所づくりとしての重要な役割を果たしている。コロナ禍においても工夫しながら食事の提供を継続するなど、支援活動が継続していることは評価できる。今後は、この取組を持続可能な形で維持していくための体制整備を充実させていくことが重要である。

- 学校が目指す生徒像「自他ともに尊重し、社会人として自立できる人」を目指し、学校が組織的に一丸となって取り組んでいる。生徒が自分に合った授業を選択できる科目数の多さ、地域との連携による生徒活躍の場・職業体験の確保、生活習慣を整え安心して通える環境の整備等、学校の特色を教職員が理解し継続していこうと取り組んでいる。

- 多種多様な生徒一人ひとりの実情を十分に汲み取りながら丁寧に支援・指導しようとする雰囲気が教職員の間に定着しているようである。それが、在籍生徒や保護者にとって、学校の魅力と受けとめられているだろうと感じた。

水曜日にオープンする校内居場所カフェ
「ようこそカフェ」

[3] ようこそカフェ…飲み物やお菓子、軽食を無料で提供する交流・相談の場として、大学生・社会人ボランティアの方々とともに運営。

【進路希望実現への支援】

- 「自他ともに尊重し、社会人として自立できる人」を目指すことを生徒像として掲げ、その実現のためのスモールステップに基づくキャリアプランニングが設定され、インターンシップや横総未来博など、様々な活動が実施されている点は評価できる。その結果、3 年間で卒業[4]する生徒の割合が 7 割となるなど実績もでてきている。

- 卒業生による経験談を実際に聞くことができる「卒業生シンポジウム」は大変素晴らしいプログラムだと思う。3 年間で卒業する生徒が増えていることから、自分の進路と向き合うきっかけが早期から計画的にされている結果の表れだと思われる。

- 単位制、三部制、総合学科という特長を生かして横浜総合高校ならではの教育環境づくりが真摯に行われている。3 年間で卒業する生徒が 7 割にのぼっており、生徒が学校生活に前向きになるよう、学習指導、生徒指導、履修指導の体制がつくられていると思われる。

70 以上の大学、短大、専門学校及び一般企業が
体験・相談ブースを開き、楽しく進路を考える
「横総未来博」

【市立高校におけるグローバル人材の育成】

- 「産業社会と人間」の中で「グローバル探究」と題した国際理解教室に取り組んでいる。AET[5]を活用しながら、学校内でのコミュニケーション力の育成に力点を置いて取り組むなど生徒の現状に対応した取組をしている点は評価できる。毎年 1 割近く外国につながる生徒が在籍しており、今後は在県外国人等特別募集が開始される予定であり、より一層のグローバル人材の育成の取組が重要になるので、今後のさらなる取組に期待したい。

- コミュニケーション能力の向上を目標に掲げているが、生徒一人ひとりにどのように成果が表れているのか現状が見えにくい。令和 5 年度より在県外国人等特別募集を開始することにより、幅広く多くの生徒が入学することで、より充実した異文化交流と積極的な生徒同士のコミュニケーションを期待したい。

- 外国につながる生徒の在籍数が 1 割にのぼる中で在県外国人等特別募集も開始予定であり、生徒同士が学校生活を通じて異文化理解・多文化共生の重要性を実感できる機会は増えていくものと思われる。生徒が相互に相手を尊重し認め合う包摂的な文化の醸成をさらに進めていくよう期待する。

---

[4] 3 年間で卒業…横浜総合高校は三部制となっており、生徒は、正規履修として、Ⅰ部（午前）、Ⅱ部（午後）、Ⅲ部（夜間）の各 4 時間の授業を履修し、4 年間での卒業を目指すが、他の部の時間帯で「プラスの授業」を選択することで、Ⅰ部・Ⅱ部・Ⅲ部ともに 3 年間で卒業することもできる。

[5] AET（Assistant English Teacher）…英語指導助手。学校の授業等で英語の教員とティームティーチングを行う。

（２）教育活動の状況

観点	評価者1	評価者2	評価者3	評価規準
《教育課程》 学校の実態、課程や学科の特色を十分考慮した教育課程の編成がなされているか	A	A	A	中期学校経営方針に示された取組が計画を大幅に上回って進んでいる
	B	B	B	中期学校経営方針に示された取組が概ね進捗している
	C	C	C	中期学校経営方針に示された取組があまり行われていない
《生徒指導・教育相談》 生徒の生活習慣の確立及び規範意識の形成に向けて取り組んでいるか。個々の生徒について理解を深め信頼関係を作っているか。また、教職員一丸となって取り組んでいるか	A	A	A	すべての教育活動を通じて、豊かな人間関係づくり、問題行動の未然防止や規範意識を醸成する取組が充実している
	B	B	B	人間関係づくり、生活習慣の確立・規範意識等の改善に向けた取組の効果が表れている
	C	C	C	人間関係づくり、生活習慣の確立・規範意識等の改善に向けた取組があまり行われていない

【教育課程】

- 教育課程については、教科横断的な授業の実施にも取り組み、生徒の興味・関心を引くような授業の工夫がなされている。授業改善に当たっては、授業研究委員会が中心となり校内研修を行ったり、教員が主体的に授業力向上に取り組むメンター研修を実施したり、校内授業公開週間を設けて授業を見合う機会を設けるなど、多様な授業力向上の機会が整備されている点は評価できる。このような仕組みは整ってきているので、今後は、これらの仕組み利用が一部の教員にとどまることなく、学校全体で組織的に授業改善に取り組んで行くことを期待したい。

- ネットワーク環境等の施設面での ICT 環境は整いつつあるが、生徒が利用可能な端末の環境整備は十分とは言えない（全生徒に Google アカウントが提供されているが、学校には約 80 台の端末があるのみで、多くの授業で活用するためには十分とは言えない。またタブレット等を家庭で用意できない生徒もいる）。そのため授業での ICT 機器の活用はまだ十分に行われているとはいない。今後は、生徒の事情を考慮しながら、生徒が利用可能な端末の整備と共に、 ICT を活用した授業の工夫などが必要である。

- 教育課程の改革において教育課程編成の変更がしにくいという点が課題となっている。同校の特色でもある三部制ということを最大限に活用するために多数の科目が複雑に配置されている。そのため、生徒の実態やニーズ、希望なども踏まえた科目の設定や変更がしにくいという点がある。これについては短期的に変更することは難しいと思われるので、現状の課題や教育課程編成上の課題等を見極めながら、教育課程編成の工夫を図るための取組を検討することを期待したい。

- 総合的な探究の時間において、まだ“探究”についての理解が十分でないこともあり、手探りの状況で取り組んでいるという点が課題として指摘できる。また学力差が大きい生徒の実態を踏まえて、何に取り組むべきなのかという点も課題である。今後は“探究”の定義について教員間や教科間での共通理解を図り、生徒の状況やニーズに合わせた活動をさらに検討し、学習指導要領に基づいた指導を実現するための取組が重要である。

- 教員同士が授業を学び合う取組が継続されていること、教科横断型授業の取組などから、授業力向上に向けた教員の努力と積極性を強く感じた。今年度より開始した新カリキュラムについて、導入までの準備期間に教員同士が学び合い情報交換を図ることでスムーズに移行されたとのことから、授業に対する丁寧な取組が組織的に行われていることがうかがえた。

- 三部制という難しい組織形態であるにもかかわらず、「プラスの授業」を含めた選択履修の幅をつくり、個々の生徒のニーズにきめ細かく対応している。3 年間で卒業する生徒が多いのはその成果であると思われる。授業は少人数で行われ、教師は各生徒に寄り添いながら丁寧に指導している様子がうかがわれる。

【生徒指導・教育相談】

- 多様なバックグラウンドを持つ生徒の実態を把握しながら的確に生徒指導を行っている。今後は、教職員間だけでなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門職、福祉等の行政部局、NPO 等の民間の支援機関等との連携協力体制を、持続可能な形で整備していくことが重要である。

- 教員やスクールカウンセラーや外部団体と連携して運営している「ようこそカフェ」など、生徒が自分にとって話しやすい相手に気軽に相談できる場の選択肢が多く設けられおり、素晴らしいと思う。それらの場から寄せられた生徒の情報の共有も迅速に行われている様子がうかがえた。

- 生徒によるアンケート結果では、「希望する進路に進むために必要な科目や興味・関心を満たす科目が設定されていますか」の肯定的回答は 83%にのぼり、前年度より低下しているとはいえ、高い値を示している。「あなたはホームルーム（学級）で良好な人間関係が築くことができていますか」は 79%、「先生はあなたの不安や悩み事などについて親身になって相談にのっていますか」は 84%と、いずれも高い。

- 新型コロナウィルス感染症の感染状況が終息しない状況のもとで、生徒の中には不安やストレスを抱えるケースが増えている可能性があるが、生徒指導部、保健室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと各教職員が連携を密にしながら生徒から相談しやすい環境づくりに努めている。多様な課題を持つ生徒がおり、家庭環境に課題のある生徒が少なくない中で、教師と生徒の良好な関係が形成されている。

（３）学校経営の状況

観点	評価者１	評価者２	評価者３	評価規準
《教育目標等の設定・実施》 教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか	A	A	A	教育目標が生徒・保護者に理解され、目標達成に向けた効果的な取組による成果が顕著に現れている
	B	B	B	学校は生徒・保護者に教育目標を周知し、教育目標の見直しや改善に意欲的に取り組んでいる
	C	C	C	目標達成に向けた取組があまり行われず、教育目標が生徒・保護者にあまり浸透していない
《保護者・地域等との連携協力》 学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか	A	A	A	保護者及び地域には常に教育活動の情報提供が行われ、円滑な協力関係が築かれている
	B	B	B	保護者及び地域に教育活動についての理解が得られ、連携協力して学校が運営されている
	C	C	C	保護者及び地域に教育活動について情報提供があまり行われず、連携に大きな課題がある

【教育目標等の設定・実施】

- 教育目標の設定及び実施については、目標に対してアンケート項目の番号を連結させて結果を把握するなどの工夫がされている点は評価できる。今後も、目標に基づく成果の検証を的確に行いながら、持続的な改善に取り組むことを期待したい。

- 教職員は２部体制となっており、教職員の意思疎通や共通理解の醸成には、通常の学校以上に工夫と配慮が必要である。その点について、COCOO[6]等の情報システムを活用したり、会議時間の工夫などが行われており評価できる。

- 保護者から見た学校に対する満足度が 90%を超える高評価を得ていることから、教育方針に関する学校からの説明の充実と、保護者の理解が深まっている様子がうかがえた。

- 生徒への教育目標達成に向けた取組として、身体的に配慮が必要な生徒に対しても安心安全に学校へ通えるよう物理的な配慮がされており、生徒一人ひとりが平等に学ぶことができる環境が整っている様子がうかがえた。今後も生徒一人ひとりの学びの場の保障、充実が図られることを期待する。

- 保護者によるアンケートでは、「教育方針や学校目標についてきちんと説明していますか」86%、「本校の教育課程は、生徒の進路実現や適性に応じたものとなっていると思いますか」87%、「本校に入学させてよかったと思いますか」93%など、軒並み非常に高い評価がなされており、学校と保護者の間で教育目標が十分に共通理解されていることがうかがわれる。学校からの適切な情報提供が行われ、生徒の成長について保護者も肯定的な認識を抱いていることの表れだと思われる。

[6] COCOO…（株）１３７が開発した学校連絡・情報共有サービス。

【保護者・地域等との連携協力】

- 保護者との連携協力に関しては、COCOO を活用して、学校と保護者及び生徒との間で双方向の情報提供や情報共有が行われている点は評価できる。地域等との連携協力に関しては、地域探究の活動成果である「横総生にオファーです」という取組が評価できる。これは、横浜市消費生活総合センターや区役所等の地域や外部機関と連携した取組であり、地域課題を生徒が調べ、改善策を提案していくという活動となっている。その活動が地域からも評価されている。今後は、生徒の実態を踏まえた上で地域の課題にどう取り組むのかという視点から、地域探究の教育活動としての成果を上げていくことに期待したい。また、地域探究の活動を通して、地域の課題を自分ごととして捉え、社会の一員としての自覚を持つというキャリア形成にも結びつくような活動となることを期待したい。

- コロナ禍ゆえ地域との直接的な活動は縮小規模となっているが、地域との連携は継続されている。その中で、生徒が地域の中で活躍できる場があり、生徒の活動意欲向上や自己肯定感が育まれていると感じた。

- COCOO 導入により、学校と保護者、学校と生徒における連絡体制がより円滑になっている。より様々な情報を手軽でタイムリーに情報共有できるよう、一層の連絡体制の充実を期待したい。

- 「ようこそカフェ」は生徒と地域の人たちをつなぐ活動になっており、学校生活に対する生徒の意欲付けにも重要な効果を持つ取組だと受け止められる。

（４）いじめに関する項目（いじめへの対応）

- いじめ防止対策委員会を毎月１回開催し、教員間でも情報共有等を確実に実施している。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し活動を行っている。教育相談体制の充実により生徒からの早めの相談が増えた。今後も継続し、早期発見早期対応に努めていただきたい。

- 生徒によるアンケートでは、「学校はいじめや差別を許させない環境作りに努めていると思いますか」の回答が 79%を占めており、教職員による指導体制は一定程度生徒の間に浸透していると思われる。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携も意識されており、こうした状況を継続していくことが期待される。

（５）総合所見

- 定時制、三部制、単位制総合学科という特徴に基づいて課されている「多様な背景を持った生徒の将来に繋がるような場にすること」というミッションを実現するために、現状分析を踏まえた課題の共有と、課題解決のための取組が着実に実施されていると言える。例えば、3 年間で卒業する生徒の割合が 7 割となるという結果は取組の成果として評価できる。

- 同校では、校長が交代しても、教育理念や改革方針がぶれずに継承され、現状を踏まえたさらなるバージョンアップがなされ、その取組が着実に実施されていることを確認できた。その点からすると着実に学校改革が進められていると言える。しかし、それが一部の教職員に支えられて実施されている点は、今後の改革の継続性を考えた時には不安材料である。改革を担う人材を育成し、組織的に取り組めるような体制整備を行うことが次の課題であると言える。

- 若手教員が多いという特徴は、強みであり弱みとも言える。若手教員が意欲を持ってチャレンジできる学校の雰囲気を醸成することと、それを支える体制を学校内に整備することが重要である。その意味において、メンター研修という教員が自主的に取り組む研修は重要であると言える。自主的に改革に取り組む意識改革が浸透し、学校全体で組織的に授業改善や組織改革に取り組むことができるように、管理職のリーダーシップに期待したい。さらに授業改善のための校内研修の充実などに中学校経験者の知見を活用するなど、多様な人材を活用した学校改革の雰囲気作りをしてほしい。

- 同校の特色ある活動の一つが「ようこそカフェ」である。コロナ感染症がその運営に影響がありながらも、NPO 等の外部機関と連携協力しながら、工夫して活動を継続し、生徒の居場所づくりという役割を維持してきていることに敬意を表したい。今後はこれらの活動を人的にも財政的に持続的に継続していくための体制整備も視野に入れた活動をしていくことを期待したい。

- 多様なバックグラウンドを持った生徒が在籍し、学力差も大きい。また進路選択も多様である。このような生徒に対する教育活動の充実には、生徒の実態を的確にかつ継続的に把握していくことが重要である。現在取り組んでいるアンケートやデータ等を活用した生徒の現状把握が行いつつ、それらを根拠した学校改善のサイクルを整備して、継続的な学校改革に取り組んでほしい。

- 授業力という点ではまだ改善の余地がある。授業研究委員会がサポートする体制が整いつつあるが、今後は、若手教員が授業を追求できるような機会の充実とともに、そのための実質的な時間の確保と心身の余裕を持てるような働き方改革もより意識した取組を実施して欲しい。

- 教育活動の進め方や地域との連携など様々な場面から教職員が一丸となって取り組む様子、生徒一人ひとりと向き合い社会で活きる力を育む取組を多岐にわたってされている様子が随所にうかがえた。

- 令和５年度より通級による指導を開始する。三部制の中でどのように組み込むのか、希望制となるが想定を超える人数が希望されたとしても対応可能なのか、体制づくりの課題の多さが予想されるが必要とする生徒が安心して受けられるよう積極的な取組を期待している。

- ようこそカフェは多くの多様な生徒が思い思いに集まって地域の人や教職員と触れ合う場として機能している。コロナ禍のもとで感染予防に注意を払いながら、地域の人による手作りの軽食が提供され、温かい雰囲気の居場所が確保されている素晴らしい取組である。

- 単位制、三部制、総合学科という形態のもとで、教職員にとっては複雑な時間割、カリキュラムの実施が求められ、相互のコミュニケーションや情報共有にも難しさがある中で、学校の魅力づくりの基本が共通理解されている様子が随所にうかがわれる。個々の生徒に寄り添うことが重視され、少人数授業で丁寧な指導が行われている。

- 若手教員が中心になって教科横断的な授業も試みられ、授業研究にも取り組んでいる。授業の質を高めるための校内での取組がさらに広がることが期待される。

- 生徒会活動や委員会活動への主体性という点では物足りない部分があるかもしれないが、集団の前面に立って行動するという目立つ行動にばかり注目する必要はないだろう。それぞれの生徒の個性に応じて、他者や所属集団への敬意を持って発言したり行動したりできることが重要であり、その現れ方は人それぞれであろう。多種多様な生徒が学校で居場所

を確保され、自己肯定感を持って卒業していくことができるように支援・指導する体制をさらに定着していくことが期待される。

- アンケート結果の中で特筆すべきは、保護者の 93%が「本校に入学させてよかったと思いますか」という質問に肯定的な回答を寄せていることである。今後も保護者からの信頼形成を意識しながら一人ひとりの生徒のニーズに応える教育実践を続けていくことが期待される。

令和４年 11 月発行　横浜市教育委員会事務局指導部高校教育課
〒231－0005　横浜市中区本町 6-50-10　市庁舎 14 階
電話　045－671－3272　FAX　045－640－1866